

科目名称	特別支援教育（中・高）
授業コード	BN328
英語名称	
学期	2024年度前期
単位	2.0
担当教員	石橋 裕子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	高等学校等で教育経験のある担当者が、ディプロマポリシーにある「教育の実践的な活動を支え、それに不可欠な教育学・教科内容学・教科教育学などの専門的知識や技能を習得」するために、以下のように授業を展開する。 1.特別支援教育の理念や考え方等を理解する 2.特別の支援を必要とする幼児児童生徒の特性や心身の発達を理解する 3.各障害の特性及び支援方法、特別支援教育に関わる学校内外の職種や関連機関等との連携等について理解する 4..障害はないが、特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒や支援の方法等について概観する
科目に関連する実務経験と授業への活用	高等学校等で教育経験のある石橋が担当し、4人1チームでの学びを基本とする。毎時間ルーブリック等を用いて授業を振り返る。また、配慮の必要な児童への指導上の留意点を解説する等、常に学校現場を意識した授業を展開する
到達目標	カリキュラムポリシーにある「子どもの発達や教育の基礎を学ぶための科目」として、以下のような目標を設定する。 1.特別支援教育の理念や子どもの教育を支える制度や教育上の仕組みを理解する 2.発達障害及び障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への支援と指導の在り方について検討できる 3.特別支援教育にかかわる学校内外の職種や様々な福祉等関連機関との連携を知る
計画・内容	第1回：ガイダンス、講義概要、協同学習での学び方、特別支援教育の理念や仕組みを知る（教科書 第1講） 第2回：発達障害1 特別の支援を必要とする幼児児童生徒の特性を知る（教科書 第2講） 第3回：発達障害2 理解しにくい、聞こえにくい見えにくい等発達障害の疑似体験を通して、支援の方法等を異検討する（教科書 第2講） 第4回：特別支援教育と校内支援体制 幼小中高校での特別支援教育の現状を知る（教科書 第4・6～9講） 第5回：教育課程の中の特別支援教育 特別支援学級、通級による指導、特別支援教室を理解する（教科書 第3・11講） 第6回：特別支援教育に関わる人たちと関連機関 特別支援教育コーディネーター・養護教諭・スクールソーシャルワーカー・スクールカウンセラー、児童相談所・子ども家庭支援センター等との連携を知る（教科書 第5・12講） 第7回：特別支援学校 特別支援学校の教育・センター的機能とその役割を知る（教科書 第10講） 第8回：様々な障害 情緒障害・知的障害・肢体不自由・病弱・身体虚弱・視覚障害・聴覚障害・重複障害等の理解と支援方法を検討する（教科書 第10講） 第9回：特別の教育的ニーズ 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒を知り、支援方法を検討する 1（貧困、虐待）（教科書 第13～14講）

計画・内容	第10回：特別の教育的ニーズ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒を知り、支援方法を検討する2（外国にルーツがある、ヤングケアラー、アレルギー・偏食）（教科書 第13～14講） 第11回：特別の教育的ニーズ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒を知り、支援方法を検討する3（LGBTQ、ギフテッド）（教科書 第13～14講） 第12回：他機関との連携 1 児童相談所一時保護施設・児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設の特徴等と利用児を知る（教科書 第13～14講） 第13回：他機関との連携 2 児童心理治療施設・児童自立支援施設・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センターの特徴等と利用児を知る（教科書 第13～14講） 第14回：個別の教育支援計画・個別の支援計画 学級担任等が立案する支援計画を知る（教科書 第2・5・10講） 第15回：総括 成果と課題をまとめ考察する（教科書 第15講）
授業の進め方	1.家庭での予・復習時に作成した自学ノート、教科書、ワークシート、振り返りシート等を使用する。 2. 4人1グループを基本とした協同学習によるストラクチャ（手法）で学ぶ。協同学習の詳細は第1回で説明する。
能動的な学びの実施	1.毎時間ペアまたは4名のチームでの協同学習での活動を中心に学ぶ。 2.互いの知識が高められるよう、ホワイトボード等を使った言語での活動等も行う。
授業時間外の学修	1．予習 教科書のわからない語句等にアンダーラインを引き、意味を調べて余白に意味を記入し、前時に配布されたワークシートに取り組む（40時間程度） 2．復習 ワークシートに追記する等してファイル等に綴じ、学びを自学ノートにまとめる（20時間程度）
教科書・参考書	教科書 「よくわかる！教職エクササイズ 特別支援教育」石橋裕子ほか編著 ミネルヴァ書房 参考書 「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーベル館 「幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説」文部科学省 フレーベル館 「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 東洋館出版社 「中学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 東山書房 「高等学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 東山書房 「特別支援学校学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）」文部科学省 開隆堂出版 「特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（高等部）」文部科学省 海文堂出版 「よくわかる社会福祉施設」全国社会福祉協議会 「介護等体験ガイドブック フィリア」[新学習指導要領（平成29年公示）版] 全国特別支援学校長会 ジアース教育新社 「新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」石橋橋裕子他編著 同文書院 「小学校教育実習ガイド」石橋裕子ほか編著 萌文書林
成績評価方法と基準	出席状況20%、提出物10%、活動状況20%、試験50%等を総合して評価する。
課題等に対するフィードバック	ループリックは毎時間コメントを記して返却する。
オフィスアワー	Campus Squareを参照
留意事項	1.予・復習時には自学ノートを作成し、毎時間の学びを視覚化する。 2.自ら学修課題を解決するように努め、演習やグループでの学びに取り組む。 3.私的なスマホ操作等は禁止する。

留意事項	4.チーム活動が中心の授業展開なので、欠席するとメンバーに迷惑が掛かる。欠席することがないよう健康管理には十分注意を払う。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	授業の進め方 1.学内インフラを使用した課題学修を中心とした授業を、教科書とともにパワーポイントやワークシート等を併用して展開する。 2.事前学習を行っていることを前提に授業を展開する。 3.パワーポイントは音声を付けて配信する。 成績評価方法 1.課題及び振り返りシート等の提出物50%、期末試験50%、等を総合して評価する。 2.課題が期限に遅れることなく提出されることを出席の原則とする。